

科目名	医用機器安全管理学 I			授業の種類	講義演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 通年
【授業の目的・ねらい】 医療機器安全管理学は、臨床工学技士のすべての領域でもっとも基本的な医療機器の安全管理について学びます。各領域の専門的知識の範囲外で包括的に臨床での医療機器の安全について学ぶことを目的とする。							
【実務者経験】 臨床工学技士として加古川中央市民病院に勤務。臨床工学室技師長として院内の医療機器の安全管理に従事。							
【授業全体の内容の概要】 人体の各種エネルギー反応や各医療機器における安全基準、病院設備について、また医療安全の体系的な概要について把握することで、臨床での働き方となるよう、実践的な知識の習得を目指す。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ①各種エネルギーの安全閾値や対策、設備の安全について説明できる。 ②安全におけるシステムや関係法規等について説明できる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	オリエンテーション：臨床工学技士と安全管理／医療機器に関する関係法規について理解できる						
2	各種エネルギーと生体反応との関係について						
3	医療電気機器の安全基準について理解できる						
4	医療電気機器の安全基準について理解できる						
5	安全管理技術について理解できる						
6	安全管理技術について理解できる（実習）						
7	電磁環境について理解できる						
8	病院電気設備の安全基準について理解できる						
9	病院電気設備の安全基準について理解できる						
10	医療ガスに関する安全基準について理解できる						
11	医療ガスに関する安全基準について理解できる						
12	病院電気設備／医療ガスについて理解できる（実習）						
13	システム安全について理解できる						
14	洗浄・消毒・滅菌について理解できる						
15	講義の振り返り						
	定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 医用機器安全管理学 第2版、篠原一彦ほか、医歯薬出版株式会社 ・配布資料							
【準備学習・時間外学習】 ・随時、授業前に確認テスト等を行う（評価には含まない）ため、十分な予習と復習を行うこと							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として評価する 中間テストを40点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							